

I N D E X

- BioJapan 2015 出展のご報告
- トピックス：マイクロバイオーーム -国内外の研究開発状況-
- プロジェクト研究成果報告会開催のご案内
- JMAC シンポジウム「バイオ市場拡大戦略としての国際標準化」のご案内
- 医薬基盤・健康・栄養研究所セミナー・シンポジウムのご案内
- デンマーク・ライフサイエンスセミナーのご案内

■ BioJapan 2015 出展のご報告

2015年10月14日(水)～16日(金)の3日間、パシフィコ横浜にて BioJapan 2015 が開催されました。17回目の開催となった今年は、31か国から714社の参加があり、展示会出展者数は551社、パートナリング参加企業は714社、パートナリング参加者数は1,222名、来場者数は14,153名と、昨年よりも増加し、大変盛況のうちに終了いたしました。

JBICは、今年からブースのデザインを新しくし、ブース内で連日プレゼンテーションを行いました。JBICが参加しているプロジェクトの研究成果について研究リーダーの先生方からご講演いただき、多くの方が興味を持って足を止めていただき大変活気のある3日間となりました。JBICブースにお立ち寄りいただきました皆様、誠にありがとうございました。プレゼンテーションの様子は下記からご覧いただけます。

<http://www.jbic.or.jp/news/event/sub/2015/1014-16r.html>

来年の BioJapan 2016 は、2016年10月12日(水)～14日(金)にパシフィコ横浜で開催されます。再生医療をテーマとし、「再生医療 JAPAN 2016」を同時開催する予定です。BioJapan は年々盛況になっており、来年はより広い会場を予定しております。

来年も皆様のご来場をお待ちしております。

■ トピックス：マイクロバイオーーム -国内外の研究開発状況-

マイクロバイオーームとは、人の体の消化管や皮膚などに住み着いている常在菌の総体のことで、例えば腸内の場合は腸内細菌叢や腸内フローラとも呼ばれています。この腸内細菌のバランスが私たちの健康に大きな影響を与えていると言われ、最近ではマスコミ等でも取り上げられています。人では常在菌の種類は1000種程度、菌体数では1000兆個ほどと言われています。人の細胞総数は約60兆個ですから、細胞総数の10倍以上もの細菌と共生していることとなります。マイクロバイオーームは、人自身で作る事ができない栄養素を合成したり、免疫系を調整しアレルギーや炎症を防ぐなど、健康維持に深く関与していることがわかってきています。

米国 NIH では、健常者の標準的なマイクロバイオーームを調べる目的で、Human Microbiome Project (HMP) を 2008 年から 5 年間 (第 1 期 総予算 1.8 億ドル) 実施し、242 人の健常人からの 5000 サンプル (皮膚、口腔、鼻腔、下部腸管など) についてメタゲノム解析を行いました。2013 年からは phase2 が開始し、早産・周産期関連、炎症性腸疾患 (IBD)、2 型糖尿病とマイクロバイオーームの関連についての研究が行われています (開始時から 2014 年までの予算は 2,420 万ドル)。

ヨーロッパでは MetaHIT と名付けられたプロジェクトが、2008-2012 年の 5 年間、予算総額 1,140 万ユーロで実施されました。このプロジェクトでは、ヒト腸内マイクロバイオーームと疾患の関連について、IBD と肥満に焦点を当て研究が行われました。マイクロバイオーームの多様性低下が IBD と関連することが確認されました。

国内では、東京大学・服部正平教授が日本人 13 名の腸内マイクロバイオーームのメタゲノム解析の結果を 2007 年に発表 (DNA Res. 2007, 14(4):169-81) するなど、早期から研究が行われており、現在でも慶応義塾大学や理化学研究所などからトップジャーナルに関連論文が多く発表されています。また、東京工業大学では Japanese Consortium for Human Microbiome (JCHM) を組織し、産学共同研究を進めようとしています。このように個別の研究機関での活動はありますが、米国 NIH のような大規模なプロジェクトは実施されていません。

以上のようなゲノム解析だけでなく、マイクロバイオーームを正常化する治療法の研究や治験が行われ、菌体その物が「薬剤」になる可能性が示されてきています。IBD などでは、健常者の腸内細菌を患者に移植するという便移植 (FMT) の治験結果が報告され有効性が確認されており、自己免疫疾患などでも FMT の臨床研究が行われています。欧米ではマイクロバイオーームを利用した治療・医薬品開発のバイオベンチャーが設立され、大手製薬企業との提携も散見されます。例えば、慶応大・本田教授が見出した IBD に有効な 17 種の菌体 (VE-202) を研究開発している米国ベンチャー企業 Vedanta Biosciences に、ジョンソン・エンド・ジョンソン社は総額 2 億 4100 万ドルを出資し、VE-202 の治験を実施予定です。このようなバイオベンチャーと大手製薬企業との提携は、Nature 誌の IN Focus・News 欄 (Nature 2014;509:269-70) にも取り上げられ話題になっています。

以上のように欧米では 2008 年頃から、疾患や健康状態とマイクロバイオーームの関連を探るために国家プロジェクトとしての基盤研究を実施し、マイクロバイオーームと疾患や健康状態との関連を解明し、その結果を医療・医薬や診断、また、機能性食品や健康情報サービスにつなげるようなビジネスが立ち上がっています。一方、国内では、大学などの研究者が個別に研究を行って

いるだけで、国内製薬企業の活動もさほどありません。しかしながら、伝統的な発酵技術としての菌体分離や培養技術、あるいは無菌動物飼育など、日本独自の本分野での優位性があります。マイクロバイオームは、生活習慣や食事などで大きく異なるとも言われており、欧米や中国と日本では差異があると考えられます。基盤研究として国内で大規模なマイクロバイオームのプロファイリングを実施し、日本人の標準状態を調べる必要が急務です。

マイクロバイオームの調査資料を、JBICホームページのJBIC会員専用ページにアップしておりますので、下記からJBIC会員専用ページをご参照ください。

http://www.jbic.or.jp/members_only/protect.cgi?page=2

■ プロジェクト研究成果報告会開催のご案内

JBIC及び次世代天然物化学技術研究組合が平成26年度に実施した研究開発事業の研究内容と成果を報告する「プロジェクト研究成果報告会」を下記のとおり開催します。

6つのプロジェクトの研究内容と成果をプロジェクトリーダーの先生方に発表いただきます。企業の方や研究者の方々だけではなく、学生や一般の方々もご出席いただけますので、奮ってご参加ください。詳細については、下記のホームページをご覧ください。

<http://www.jbic.or.jp/news/event/sub/2015/1118.html>

【日程】 2015年11月18日(水)

【会場】 日本科学未来館 7階

> 成果報告会 13:00～18:10: 未来館ホール

> ポスターセッション 11:00～16:10: 会議室 3

【参加費】 無料

【定員】 300名

【主催】 一般社団法人バイオ産業情報化コンソーシアム
次世代天然物化学技術研究組合

【報告内容】

1. 体液中マイクロRNA測定技術基盤開発
2. ITを活用した革新的医薬品創出基盤技術開発
3. 次世代型有用天然化合物の生産技術開発
4. 福島医薬品関連産業支援拠点化事業に係る研究開発業務
5. 再生医療のための細胞システム制御遺伝子発現リソースの構築
6. 後天的ゲノム修飾のメカニズムを活用した創薬基盤技術開発

【参加登録】 オンライン登録

https://www.jbic.or.jp/roku/event_form/

受付期間: 9月17日(木)～11月16日(月)

【お問い合わせ】

一般社団法人バイオ産業情報化コンソーシアム

TEL: 03-5531-8553

■ JMAC シンポジウム「バイオ市場拡大戦略としての国際標準化」のご案内

JMAC(特定非営利活動法人バイオチップコンソーシアム)主催による第3回 JMAC シンポジウム「バイオ市場拡大戦略としての国際標準化」が下記のとおり開催されます。どうぞ奮ってご参加ください。

【日時】 2015年11月20日(金)12:00~18:00

【会場】 講演会場：東京ウィメンズプラザ ホール(地下1階)
(会員企業技術紹介パネル展示)
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5丁目53-67

【主催】 特定非営利活動法人バイオチップコンソーシアム(JMAC)

【後援】 経済産業省、産業技術総合研究所、
JST RISTEX「科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム」

【定員】 240名

【参加費】 無料

【通訳】 あり(日→英のみ)

プログラム、お申し込みはこちらから

<http://www.jmac.or.jp/ja/sympo201511.html>

【お問い合わせ】

特定非営利活動法人バイオチップコンソーシアム(JMAC)

〒102-0083 東京都千代田区麹町2丁目4番10号三誠堂ビル6階

TEL: 03-6261-1947 FAX: 03-6261-1948

<http://www.jmac.or.jp/>

■ 医薬基盤・健康・栄養研究所セミナー・シンポジウムのご案内

医薬基盤・健康・栄養研究所は、画期的な医薬品・医療機器の創出に貢献し、創薬等に特化した日本で唯一の機関です。東日本大震災復興関連事業として岩手県、宮城県及び福島県の東北3県において行われている医療機器等開発事業を支援しており、この事業の一環として革新的な医療機器の開発に資するため、一般公開セミナー、成果発表シンポジウムを下記のとおり開催します。どうぞ奮ってご参加ください。

<<平成27年度 革新的医療機器等開発事業 一般公開セミナー>>

◆ 宮城会場 ◆

【講演課題】 「臨床研究(治験を含む)と生物統計学」(仮題)

【講師】 大橋靖雄(特定非営利活動法人日本臨床研究支援ユニット理事長)

【日時】 平成27年11月4日(水)15:30~16:30

【会場】 トラストシティ カンファレンス・仙台 ROOM5
(宮城県仙台市青葉区一番町 1-9-1 仙台トラストタワー5階)

◆ 岩手会場 ◆

【講演課題】 「医療機器の開発から承認取得までに心がける点について
(実際の事例を参考として)」(仮題)

【講師】 宮崎正充(株式会社 FELIZLABO 代表取締役)

【日時】 平成 27 年 11 月 12 日(木)17:30～18:30

【会場】 岩手医科大学 内丸キャンパス 3階大会議室
(岩手県盛岡市内丸 19-1)

◆ 福島会場 ◆

【講演課題】 「アカデミアにおける知的財産戦略について(応用編)」(仮題)

【講師】 秋元浩(知的財産戦略ネットワーク株式会社代表取締役社長)

【日時】 平成 27 年 11 月 27 日(金)14:00～15:00

【会場】 福島県立医科大学 7号館(光が丘会館)2階大会議室
(福島県福島市光が丘 1 番地)

参加登録については、下記 URL からご覧いただけます。

<http://www.nibio.go.jp/part/promote/ikourenkei/news/20151104-12-27.html>

<< 東北 3 県革新的医療機器等開発事業 進捗・成果発表シンポジウム >>

【日時】 平成 28 年 1 月 19 日(火) 13:00～17:00

【会場】 ザ・セレクトン福島 (旧 福島ビューホテル)
福島県福島市太田町 13-73(JR 福島駅西口正面)
アクセス：<http://celecton-fk.jp/access/>

【主催】 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所、
岩手県、宮城県、福島県

【後援(予定)】 厚生労働省、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構、
公益財団法人 医療機器センター、日本医療機器産業連合会

プログラムについては現在作成中です。出来上がり次第ホームページへアップ
されますので、下記 URL からご確認ください。

参加登録についてもこちらからご覧いただけます。

<http://www.nibio.go.jp/part/promote/ikourenkei/news/20160119.html>

■ デンマーク・ライフサイエンスセミナーのご案内

デンマーク大使館からライフサイエンスセミナー「臨床開発インフラ充実
したサポート体制による臨床試験効率の向上」の開催についてのご案内です。

多くの成功実績を持つデンマークの臨床開発インフラに焦点を当てた
セミナーです。公共インフラ、学術インフラ、企業インフラの 3 つの方面から、

それぞれの専門家・先生方に、デンマークの臨床開発体制の優れた面をお話いただきます。公共インフラとして、患者リクルート制度の特徴、希少病あるいは小児臨床制度などを、学術インフラとして、患者のみならず国民全体の膨大なプロファイルを蓄積した医療データベースと国立バイオバンク利用の利点を、企業インフラとして、デンマークのバイオマーカーネットワークの特徴とその利用効果についてご紹介いたします。

いずれの専門家・先生方も臨床現場と密接に研究開発を行い、臨床試験についての経験が豊富で臨床試験を熟知しています。また、産学連携にも積極的に取組まれています。セミナーを通じデンマークでの臨床開発の利点をご理解いただき、今後の臨床開発の可能性の参考にしていただければと考えております。

どうぞ奮ってご参加ください。

【主催】デンマーク大使館

【後援】日本製薬工業協会／一般財団法人バイオインダストリー協会

【日時】平成27年11月10日(火)9:00-13:30(懇親会を含む)

【場所】日本製薬工業協会 8階会議室

(東京都中央区日本橋本町2-3-11 日本橋ライフサイエンスビルディング)

【参加費】無料

【お問い合わせ】デンマーク大使館 TEL: 03-3780-8740 FAX: 03-3780-8747

プログラム、お申し込み方法はこちらをご覧ください。

<http://japan.um.dk/ja/about-us/news-ja/newsdisplaypage/?newsID=DEDEC08F-6806-48A6-95FB-3258526D8EB7>

「JBIC会員企業からのご案内」の項目を設けております。
JBIC会員企業で掲載して欲しい記事がございましたら、ご連絡ください。
なお、掲載の可否についてはJBIC事務局にて判断させていただきますので予めご了承ください。

● JBICに関するご意見、ご質問、お問い合わせはこちらから。

<https://www.jbic.or.jp/roku/contact/>

● 配信中止、変更はこちらから。

<http://www.jbic.or.jp/news/mailmaga/>

● 発行：一般社団法人バイオ産業情報化コンソーシアム

JBICめるまが編集部 <http://www.jbic.or.jp/>

Copyright(c) 2015 JBIC. ALL rights reserved.